

山下 障がい者への情報提供は市の責務では

基本的な責務、課題解決に向け努力する

市長



山下 秋則 議員

視覚障がい者に対する市広報紙などの行政情報の提供は、ボランティアによる「音訳活動」に頼っているのが現状であるが、活動状況などの違いによって障がい者が得られる情報に不均衡があると聞く。

音訳ボランティアの皆さんに尽力いただき、広報紙などをカセットテープに録音して視覚障がい者に配布しているが、機器の老朽化、人員不足、活動場所の確保など課題があり、解決に向け努力しなければなら

ない。また、視覚障がい者団体からCD化への要望もあり、今補正予算で必要経費を計上した。

や福祉施設などに活用してにぎわいにつながりつつある。町家保存と活性化のため、空いた町家の活用が重要と考えるが。



にぎわいにつながる町家活用（園部町）

常任委員会活動報告

▼厚生常任委員会

8月11日・12日

一日目は、兵庫県洲本市において「洲本市菜の花エコプロジェクト」の取り組みについて視察しました。プロジェクトの開始当初は休耕田を利用した観光振興事業として景観用品種の菜の花を栽培されてい

意識の高まりや県の事業もあり、搾油用の菜の花栽培にシフトされ、今ではほとんど搾油用の品種が栽培されるようになりました。栽培した菜の花からの搾油は市内の施設で行われ、特産品の食用油として販売されています。使用済の油は市内の各施設で回収

に関する活動を進められており、法制定を受けて「食育のまちづくり宣言」を全国に先駆けて行われました。

今回の視察は、環境・健康づくりといった身近なテーマであり、調査内容を検証し、見習う施策は本市においても反映できるように取り組みします。



搾油施設の見学（兵庫県洲本市）

▼産業建設常任委員会

福井県大野市の「中心市街地の活性化基本計画」と石川県能美市の「JR寺井駅周辺整備事業」を行政視察しました。

8月22日

大野市の「中心市街地活性化基本計画」は20年に5万人以下の市として初めて内閣総理大臣に認定され、事業に対して国の支援を集中的に受けられるようになり



現地にて説明を受ける（JR寺井駅）

み、20年7月から25年3月までの計画期間に、事業を着実に実施し目標を達成することとされています。

本市園部町と同様城下町ですが、計画が着実に進められていました。

8月23日

「JR寺井駅周辺整備事業」は魅力的な駅まちづくりと、まちなかにぎわい創出を事業目的に21年～25年度を事業期間として30億円の事業費で駅周辺地区の整備をするものです。

事業費の57%は合併特別債で、ハード事業として駅舎の橋上化、自由通路、駅前広場、駐車場駐輪場整備。ソフト事業では公共交通利用促進実験や沿線緑化事業など。市は駅周辺整備プロジェクトチームを置きJRとの交渉をはじめ事業推進にあたり

▼総務常任委員会

8月29日・30日

愛知県高浜市において、高浜市総合サービス㈱の設立経過と運営状況について、また、岐阜県美濃市において、防災拠点整備施設でもある道の駅「美濃にわか茶屋」の概要と災害時における活用方法について行政視察を実施しました。

高浜市総合サービス㈱は女性の社会進出、高齢者の雇用および行政改革

の推進役として高浜市が100%出資して設立した会社であり、地域社会の発展と市民福祉の向上を目的に事業展開を図るとともに、社会貢献に努められ、質の高いサービス提供や市民ニーズに沿った、「このろのかようサービス提供」を経営方針のもとに運営されており、民間委託による人件費の削減に努められる経営感覚などを調査しまし



防災機能を備えた道の駅（岐阜県美濃市）

「美濃にわか茶屋」は、16年に発生した台風23号による増水により甚大な被害を受け、市民の防災意識も高まる中で、防災拠点施設「道の駅」として登録されました。

誰もが安心して暮らすことができるまちづくりに取り組みうえて多面的な機能を備えた施設であり、災害時には、道路利用者の一時的避難所として、また地域住民の避難所を想定し非常用電源、防災用トイレ、飲料水貯水槽、防災備蓄倉庫、情報提供装置の活用方法などを調査しました。



愛知県高浜市役所



福井県大野市での研修